

「天神」 学習システムが 「日本e-Learning 大賞」受賞

第10回「日本e-Learning大賞」の授賞式が平成25年11月20日に行われ、株式会社タオの「天神」がe-Learningの頂点となる最優秀賞「e-Learning・オブ・ザ・イヤー（日本e-Learning大賞）」に輝いた。同社は、平成18年度の経済産業省「IT経営百選」において最優秀企業として表彰され、平成24年度には「滋賀でいちばん大切にしたい会社」に認定された。それに続く榮譽ということになる。

国あげてe-Learning推進

平成25年11月20日、22日に開催された日本e-Learningアワード2013フォーラム（主催…e-Learningフジサンケイビジネスアソシ、後援…経済産業省、文部科学省、総務省、厚生労働省等）において、「日本e-Learning大賞」の



株式会社タオ 代表取締役社長 井内 良三 氏

ほか、経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、総務大臣賞、厚生労働大臣賞等が表彰された。

「日本e-Learning大賞」は、企業・自治体・団体におけるe-Learningを用いた生産コストダウン・生産性向上・業務改革、また学校・個人においては新しい学習の可能性・学力向上に役立つ様々なコンテンツ・サービス、ならびにソリューションを表彰する賞。日本におけるe-Learningの健全な発展、市場の確立、コンテンツ・サービス提供企業の育成支援を目的として設置されているものといえる。国全体でe-Learningを推進しようという狙いがあり、大賞以外に、各大臣名を冠した賞が設けられているのも、対象が全産業分野にわたるためである。

グランプリにあたる第10回「日本e-Learning大賞」を受賞したのは、株式会社タオ（滋賀県草津市）代表取締役社長・井内良三氏が開発・運営する学習システム「天神」。ちなみに、経済産業大臣賞は株式会社ネットラーニング、文部科学大臣賞は近畿大学附属高等学校、総務大臣賞は阪神高速道路株式会社が受賞した。

今回、株式会社タオの大賞受賞は、同賞設置以来初の全会一致で決まった。同社の井内社長は「各賞とも票が割れるのが普通で、全会一致は異例のことと聞きました」と喜びを語った。

日本の トータル学習システム

株式会社タオが受賞した取り組みのタイトルは「CAI、プリント、ビデオをフル装備した日本最大のトータル学習システム」、「天神」だからできたこと。主催者側は、受賞理由として、e-Learningシステムの有効性、実利性、教育実践のシステム性といった視点から極めて有用で合理的なものであるといえる。学校内での利用、家庭内での利用の双方に対応したもので、現実の教育ニーズに対応したものである。「天神」が持つ機能は組織における生産性、品質保証性、新規性、社会連携



東京御茶ノ水ソラシティで行われた、第10回「日本e-Learning大賞」授賞式にて

性、学習達成評価といった審査基準からみて、極めて優れたe-Learningシステムの開発・実践であり、大賞に値すると判断できると評している。

「天神」の大賞受賞の柱となっているのは、極めて有用で実効ある学習システムであるという点だ。「天神」は、ドリル・アニメ・ビデオ・プリント機能を併せ持つ、高度に統合されたトータルな学習システムである。6つの特徴があり、その1つは、教科書準拠。全学年・全教科が各地域の教科書に対応している。2つ目は、全問題印刷可能。必要に応じて自由自在に印刷できる。3つ目は、ビデオ講義。講師が話すスピードも5段階に調整可能。4つ目は、テスト対策。教科書の範囲を指定するだけで、予想問題を作成。しかも、作るたびに問題が変わる。5つ目は、成績管理。学校・塾では、生徒ごとに学習履歴や教科・単元ごとの分析結果をワンタッチで表示できる。6つ目は、幼児から大学入試まで対応。乳幼児才能開発ナビシステム、小学生版・中学生版・高校生版の戻り学習・先取り学習プログラムは、特許を取得している。戻り学習とは、苦手な学習内容について、その生徒がつまづいたところまで自動でレベルダウンできるという画期的なシステムである。

株式会社タオでは、22年前の創業時より、自己実現を支援することを使命としている。井内社長は「自己実現支援のために「天神」をできるだけ多くのところで生かしていただきたい」と希望している。